

「英語教育政策を問い直す」

講師：和歌山大学教育学部

教授 江利川 春雄 氏

【講演概要】

グローバル化時代に対応すべく、学校の英語教育が会話中心の「実践的コミュニケーション重視」に転換して約 20 年が経過した。この 4 月からは小学校での外国語活動も必修化される。

だが、一連の英語教育改革は理論的根拠も成果の検証もないまま進められてきた。その結果、期待とは裏腹に、読解力を中心とする英語学力と学習意欲が著しく低下し続けているとする研究報告が相次いでいる。教員の疲労も限界にきている。

なぜこうなってしまったのか。今後どうすればよいのか。まず、危機的な現状と原因を正確に認識し、その上で、今後の外国語教育政策のあり方と、日本人にふさわしい英語学習法を考えていきたい。

【略歴】

和歌山大学教育学部教授。大阪大学外国語学部講師。博士（教育学）。

専攻は英語教育学、英語教育史。

1956 年、埼玉県に生まれる。神戸大学大学院教育学研究科修了。

現在、神戸英語教育学会会長、日本英語教育史学会副会長、和歌山英語教育研究会会長、中部地区英語教育学会運営員など。

【主な著書】

『受験英語と日本人：入試問題と参考書からみる英語学習史』（研究社、2011）

『英語教育のポリティクス：競争から協同へ』（三友社出版、2009）

『危機に立つ日本の英語教育』（共著、慶應義塾大学出版会、2009）

『日本人は英語をどう学んできたか：英語教育の社会文化史』（研究社、2008）

『近代日本の英語科教育史』（東信堂、2006 * 日本英学史学会 豊田實賞受賞）

『英語教科書の歴史的研究』（共編著、辞游社、2004）など。

「日本人の英語教育-社内英語化の愚-」

講師：大阪大学大学院言語文化研究科

教授 成田 一 氏

【講演概要】

「ゆとり教育」の時期には、経済界の声を背景に「英語の使える日本人育成」という目標を掲げているのに、文法・語彙力の育成を軽んじ口頭英語に不可欠な発音と聴取のための音声教育を怠り、英語を使う基盤の教育を疎かにしたまま「英語で授業をする」方針も出すなど無責任な行政を行ってきた結果、英語力が大幅に低下する中、社員の英語力の実態を無視した社長の勘違いで「英語を社内公用語化」するという企業も現れているが、「思考と発言レベル」が低下し、業務上の「情報の正確な共有」と「自由闊達な議論」が損なわれ、社員がストレスで本務に支障をきたす恐れが大きい。

【略歴】

上智大学外国語学部卒業。国際基督教大学大学院修士課程修了。

大阪大学大学院教授（言語文化研究科言語文化教育論講座）。

言語情報の認知的処理プロセスという視点から、日英語の種々の文法現象を研究。特定研究「言語情報処理の高度化」（86-88年度）からは日英語の対照研究と機械翻訳への応用に専念。90年代中葉からは日本における英語教育の諸問題を論及するとともに、具体的な改善提案を専門誌上や新聞で発表するほか、中高の先生を対象の公開講座においても持論を展開。英語教育総合研究会、言語教育談話会代表。

【主要な編著書】

『名詞』（現代の英文法6）（共著）研究社 1985.6

『ことばは生きている』（共著）人文書院 1991.9

『こうすれば使える機械翻訳』（編著）バベルプレス 1994.4

『日本語の名詞修飾表現』（共著）くろしお出版 1994.5

『パソコン翻訳の世界』（単著）講談社 1997.10

『私のおすすめパソコンソフト』（共著）岩波書店 2002.8

『英語リフレッシュ講座』（編著）大阪大学出版会 2008.4